

第3章 学級づくり・人間関係づくりの実際

1 学級づくりの進め方

(1) 学級の1年



学級担任は1年間を見通して、学級における様々な教育活動を、子ども一人一人の成長につなげていきます。学級経営においては、一人一人が尊重され、安心・安全で楽しい場所である学級を基盤とし、子どもたちが関わり合いながら、互いに高め合える集団づくりに努めます。子どもたちの持っている力を最大限に引き出し、生かし、さらに高めていけるよう、日常生活や授業、学校行事等を通して、学級づくりを進めていきましょう。

(例)

4月	進級 入学式 交通安全教室
5月	遠足 運動会 ※連休明け
6月	プール開き なわとび大会
7月	七夕集会 1学期終業式 夏休み
8・9月	※夏休み明け 2学期始業式 防災訓練
10月	修学旅行 宿泊学習
11月	学習発表会 文化祭 ※大きな行事の後 読書集会
12月	2学期終業式
1月	3学期始業式
2月	校外学習 体験入学
3月	6年生を送る会 卒業式 修了式

※は、児童生徒が落ち着かなくなりやすい時期です。

① 1学期の学級経営スタート ※高草中学校区の取組参照

新しい学年に進級し、緊張しながらも希望を持っている子どもたち。この気持ちを大切にして、1年後にどのような姿をめざすのか、子どもたちと共有しましょう。また、子どもたちと教師の好ましい人間関係を築く大事な時期です。子どもたち一人一人を認める声かけをして、積極的に関わりましょう。



② 学級目標の共有

学級目標は、学校がめざす児童生徒の姿をもとに、保護者や地域、子どもたちの願いを含め、担任の意図的な指導のもとで作ります。「知徳体」のそれぞれを含む目標にしましょう。また、学級目標を受けて、子どもが自分たちで目標を定め、反省と改善を繰り返しながら、集団や個人をよりよく成長させていくことが大切です。よりよい学級となるよう話し合い、各自が自分の目標を決めて前向きに取り組めるようにしていきましょう。

③ 学校行事を生かす

学校行事には、ねらいが設定されています。育てたい子どもの姿を明確に持ち、その実現に向けて、全教職員が共通理解を図って取り組みます。学級では、ねらいを子どもと共有し、その達成に向けて学級全体や個々に目標を持たせます。教師は、行事を実施するまでの過程で、子どもの行動を見取り、評価しながら望ましい姿に近づけます。途中でうまくいかなかったときは、互いの思いを理解したり、ともに協力したりすることで、学級が成長していきます。行事を実施した後は、成長した姿を子どもたちとともに確認し、今後につながる目標をつくり出し、次の行事や学校生活に継続させましょう。



④ 2学期の学級経営スタート ※高草中学校区の取組参照

学級としての一体感が薄れ、1学期にできていた人間関係に変化が生じている可能性があります。また、新たな不登校児童生徒が生まれやすい時期といわれています。一人一人の子どもをよく観察し、こまめに声をかけていきましょう。改めて学級のルールを確認するとともに、2学期の大まかな予定を把握させ、子どもたちが見通しをもって意欲的に学校生活が始められるようにしましょう。

⑤学級経営の定期的な振り返り

子どもの実態をもとに、自分自身の学級について定期的に振り返りましょう。子ども一人一人が安心して過ごせる学級となるように、必要な手立てを考えて改善していきましょう。

⑥1年間の振り返り

1年間の子どもの成長を具体的に振り返り、子どもたちが自己の成長を確認する機会を持ちましょう。新しい学年へ、希望や期待を持って進級できるようにしましょう。

学級経営チェックリスト

【教師の児童生徒理解】

- 児童生徒の好きなことや興味・関心のあることを把握している
- 児童生徒の得意なことと苦手なことの両面を把握している
- 児童生徒の気になる言動の要因・背景を見つけようとしている
- 日頃から児童生徒の気持ちを聞いている
- 取組の過程における児童生徒の変容や努力を評価している
- 学級以外での活動の情報収集に努めている
- 児童生徒が学級内で認められる場を設定している

【認め合い支え合う集団づくり】

- 学級の諸問題を解決するための話し合い活動を設定している
- 一人一人が役割を果たせる活動の場を設定している
- 学級や学年のルールづくりを工夫している
- 人間関係づくりを学ぶ機会や場を設定している

【授業づくり】

- 見通しや意欲がもてるよう授業の構成をしている
- 指示や発問等、具体的な話し方を工夫している
- 視覚支援を取り入れた授業をしている
- 板書計画を立て、見やすい板書に心がけている
- 机間指導の際に、児童生徒一人一人に対して評価を行っている
- 個に応じたワークシート等の教材・教具を準備し、活用している
- 教室環境の整備のチェックを行っている

【教職員との連携】

- 困ったときに校内に相談できる人がいる
- 校内で学校目標（めざす児童生徒の姿）について共通理解がなされている

【保護者との連携】

- 保護者に児童生徒の良いところや伸びてきたことを伝えている

【関係機関との連携】 ※必要な場合

- 関係機関と連携し、支援が必要な児童生徒の教育に生かしている

学級開きスタンダード「はじめの1週間」

鳥取市立高草中学校区

安心

◆ルールづくりに最適な時期

高草中学校区の各小中学校では、「学級開きスタンダード」を作成し、はじめの1週間の「ルール」の指導を全教職員で共通理解し、全学級で実践しています。計画的に統一した指導を行うことで、担任だけでなく、全教職員で指導を行うことができます。

そして、指導したことが日々の生活の中で実行されているかどうかを毎月振り返り、次の指導に生かしています。また、夏休み明けにも、同じように1週間をかけてルールを再確認しています。

※指導内容は次頁参照（大正小学校版スタンダード）



同学年の先生と積極的に話し合い、共通理解した上で、計画的に学級開きを行いましょ。ただし、すべてが計画通りに進むわけではありません。学級全体や子ども一人一人の表情や言動に気を配り、それに応じて「待つ」「言い方や内容を変える」「声をかける」など柔軟に対応しながら指導していくようにしましょ。

◆関係づくりで雰囲気づくり

ルールを指導すると同時に、教師と子ども、子ども同士の関係づくりも、授業の中でも計画的に仕組んでいます。様々なエクササイズを用意し、新たなクラスメイトと温かい雰囲気の中でふれ合えるようにしています。クラスメイトや教師との出会いがプラスに働くと、安心感をもつことができます。また、「学級、学校が楽しい」「この1年間が楽しみ」など前向きな気持ちをもつことができます。それが、学級の温かい雰囲気をつくり、その後の様々な活動への意欲にもつながっていきます。



信じてるからね！

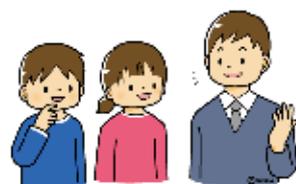


クラスの全員が参加できることが大切です。エクササイズの内容はもちろんですが、教師の演出、子どもたちの気持ちを盛り上げるための話し方も重要です。「やってみたい！」と思わせるための準備をして、温かい雰囲気の中で行いましょ。

	主な行事	ルール（たて糸）	心の通じ合い（横糸）	連絡・配布物
1 日 目	始業式・着任式	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶、返事、名前の呼び方 姿勢（写真掲示） 座席・ロッカーの確認 くつの入れ方 傘のかけ方 体育館へ出る時の並び方・歩き方 教科書、ノート配布 大正っ子の筆箱確認 ＜学び方名人＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の名前を誤りなく呼ぶ ＜あなたを認めていますよというサイン＞ 担任自己紹介 ＜教師に親しみを持たせる＞ 教師の方針 笑顔で下校させる 転入生への配慮 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だより 教科書配布
2 日 目	入学式	<ul style="list-style-type: none"> 提出物の出し方 日直の仕事確認 朝の会 帰りの会 入学式のルール 入学式の練習 お客様への挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生をあたたかく迎える 楽しい体験でさようなら ＜簡単なジャンケンゲーム等＞ 	
3 日 目	学習開始 給食開始 掃除開始 地区別児童会 集団下校	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書指導 給食当番の決定 ＜当番・準備の指導＞ 掃除の仕方指導 ＜ぞうきんのかけ方＞ 休憩時間指導 ＜5分間休憩、遊び方指導、遊具の 使い方確認、体育館使用＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 知的で楽しい学習を心がける 	<ul style="list-style-type: none"> 大正小学校の約束
4 日 目	発育測定	<ul style="list-style-type: none"> 発育測定の指導 ＜体操服の着替え方＞ 自習の仕方 学習のきまり確立 ＜学び方名人の徹底、持ち物、宿題＞ 係活動 当番活動＜一人一役＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 親しい人間関係を育てる ＜ゲーム・レクリエーションで緊張を解く＞ 学級での下校指導 ＜下校グループ確認＞ 	<ul style="list-style-type: none"> めざそう 学び方名人
5 日 目	交通安全教室	<ul style="list-style-type: none"> 学級目標の話合い 算数開き ＜みんなで分ろう＞ 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの思いや願いを知ろうとする 	<ul style="list-style-type: none"> 体操服、給食セット、上靴等持ち帰りを気遣う
毎 週		<ul style="list-style-type: none"> 毎週水曜日に、学び方名人を活用し、学習のきまり等を振り返る時間を確保 学級・学校の文化にする 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの自主性を尊重し、育てる工夫 具体的にほめて自信をもたせる 	<ul style="list-style-type: none"> 学習・生活のきまり掲示 姿勢写真
そ の 後		<ul style="list-style-type: none"> これまで指導したことをチェックし、徹底する ＜何度も何度も繰り返し指導＞ ルールとマナー 学級目標実現に向けた教師の振り返り 情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 互いを認め合える人間関係づくり 自尊感情を高める 子どものやる気と意欲を育てる 集団活動の楽しさを味わわせる 情報交換 	<ul style="list-style-type: none"> 学年だより

(2) 学級の1日

学級担任は、子どもにとって学校で1番身近な存在です。授業の時間だけでなく、給食時間、掃除時間、休憩時間等、様々な場面で子どもと関わっていきます。子どもにとって、信頼される教師でありたいものです。



子どもが安心して学校生活を送るためには、見通しを持って学校生活を送ることができるようにすることが大切です。1日の予定がはっきりと分かるものを教室に掲示しておきましょう。また、学校は集団生活を営む場なので、きまりを守ることも大切です。必要に応じて、適切な指導を行います。1日1日の積み重ねが1年となっていきます。1日を大切にしていきたいと思います。

11月10日(火)	
教科	学習すること
1 理科	流れる水のはたらき
2 算数	面積
3 スピーチ会(マラソン大会)	
4 国語	不思議な世界
5	不思議な森集会
6	
しゅわいれんら	日音、目
	漢字、B1、B2、B3、B4
	食物アレルギー調査表

(例) 小学校の1日の予定

時	教科	連絡
1	英	まとめ
2	家	魚の調理の仕方
3	国	敬語 国文法
4	社	世界の交通・通信網
5	理	実験のまとめの理
6	数	図形の訂正

(例) 中学校の1日の予定

さわやかな1日のはじまりを

安心

◆子ども一人一人の顔を見て

朝一番に会う子どもは、どんな表情をしていますか。うれしそうな顔、どこことなく元気がない顔、まだ眠そうな顔等、子どもの表情は様々です。

朝、教室に入って、子どもの顔を見ながら、一人一人の調子の良し悪しを見取りたいものです。

そして、いつもと様子が違う子どもには、朝の会後か休憩時間に「いつもと違って元気がないけれどどうしたの。」と様子を聞いたり、元気づける言葉をかけたりしてみてください。子どもは態度には出さないかもしれませんが、自分のことを心にとめてもらっていることを感じるはず。教師の心のこもったひと声が、その子どもの大きな心の支えにつながります。



朝の会では、教師の話も積極的にしましょう。今日の予定だけでなく、時事問題や先生の趣味の話もすると、児童生徒は喜んで聞くことでしょう。ただし、時間オーバーにならないように！

休憩時間は子どもの友人関係に注目

交流

◆授業中では見ることができない友人関係が見えてきます

休憩時間、担任は連絡帳の返事を書いたり、宿題の丸付けをしたりと大忙しです。また、生徒指導上の問題への対応や学年団で話し合いをする予定が入っているということも考えられます。

いつも忙しいとは思いますが、時間に余裕がある場合は、子どもたちと教室で過ごしたり、いっしょに遊んだりすることもしてみても良いでしょう。日頃見えていなかった友人関係の変化に気づいたり、子どもから悩みの相談を受けたりすることもあります。授業時間とは、また違った子どもたちの姿が見えます。



特に、あまり話すことがない児童生徒を意識してみましよう。案外、いろいろな話をしてくれることもあります。休憩時間に、教師が主役になりすぎないようにしましょう。

ルールやマナーを守って楽しい給食

交流

◆特に年度初めのルールが大切です

給食時間、特に小学校高学年や中学生になると、おなかをすかせている児童生徒も多いです。すると、早く給食を食べたいがために当番の仕事や配膳をいい加減にしてしまうこともあります。中には、自分の好きなように適当に配膳してしまう子もいます。

給食時間は、学校教育の時間です。学級のルールが徹底するまでは、丁寧に教師が指導に入ることが必要です。白衣を着て集合するとき、配膳室に行くとき、配膳するときのルール、様々なルールが必要です。また食べ始めてからも、食事のマナーの指導、おかわりのルール、食器の返し方等、様々なルールが必要です。年度初めや学期初めにしっかりとルールを確認すれば、定着していきます。ルールやマナーを守って、みんなが落ち着いて食事をする時間にすることが大切です。



新学年の始まり、学期の始まり等、大きな節目の時期にルールを徹底しましょう。教師が給食当番と行動をとることも必要です。お互いが気持ちよく食事の時間を迎えましょう。

教師も子どもといっしょになって掃除

交流

◆がんばっている姿を見つけて称賛の声を

毎日使う教室や廊下。いつも整然とした環境にしたいものです。教室や廊下を使うのは児童生徒だけではなく、教師もいっしょになって掃除をしましょう。掃除の時間は、人の気が付かないところを進んで掃除する姿や友達と協力して黙々と掃除をする姿を発見する等、子どもの意外な一面を発見することもあります。教師が子どもたちのがんばりを見つけて、どんどん称賛の声をかけましょう。

掃除の時間は、自分たちの学校を大切にしようとする愛校心の醸成にもつながっていきます。児童会活動や生徒会活動でも、学校の美化活動に対する取組があったら、学校全体が一つになってよいですね。



日頃の教師の机の周りはどうですか？整頓されていますか？子どもに言うだけでなく、まずは教師が手本を示しましょう。

2 具体的な実践例

(1) 特別活動でよりよい学級づくり

特別活動には、学級活動・児童会活動・クラブ活動（小学校）・学校行事が位置づけられています。これらの活動は、子どもの自治的な能力や自主的な態度を育て、学力向上の基盤となる望ましい人間関係を築き、いじめや不登校などの問題に対する未然防止の役割を果たすなど、子どもの成長に欠かせない教育活動です。

特別活動の特質を理解し、ねらいを明確にして指導することが、指導の効果を上げるポイントです。

①特別活動の特質

集団活動であること

よりよい生活や人間関係を築くために、目標やその達成の方法や手段などを決め、みんなで役割を分担してその実現を目指す協同的な集団活動です。

自主的な活動であること

自ら楽しく豊かな学級や学校の生活をつくりたいという課題意識をもって、指示待ちではなく、自分たちで問題を見付けたり話し合ったりして解決するなど、「子どもによる、子どものための活動」です。

実践的な活動であること

楽しく豊かな学級や学校の生活づくりのための諸問題を話し合ったり、話合いで決めたことに友達と協力して取り組み、反省を生かしたりするなど具体的に実践する活動です。

②特別活動の充実により、学校が変わる、学級が変わる

特別活動では、児童生徒のよりよい人間関係を築く力と問題解決力の育成をめざします。望ましい人間関係が築かれた学級では、特定の子どもに対して継続的に苦痛を与えるような行為は発生しにくくなります。また、問題解決力が育っている学級では、友達同士のトラブルが発生しても、よりよい解決策を自分たちで見つけようとします。

いじめの未然防止のために

いじめの未然防止のためには、学級全体にいじめを許さない雰囲気を作り出すことが必要です。『生徒指導提要』（文部科学省、平成22年3月）には、「教室全体にいじめを許容しない雰囲気が形成され、傍観者の中からいじめを抑止する『仲裁者』が現れるような学級経営を行うことが望まれます。」と記されています。つまり、いじめを許さない、いじめに負けない学級づくりが必要なのです。

特別活動には、学級の雰囲気を醸成したり、望ましい人間関係を形成したりする機能があります。子どもたち自身が主体的に取り組むことに意義があるのです。

自己有用感を育むために

特別活動では、集団の一員として集団に寄与する活動を通して、「自分自身の持ち味やよいところ」「仲間から必要とされていること」「自分も役に立っていること」を実感し自己有用感が高まります。自己有用感とは、相手に対する自分からの働きかけと、それに対する相手や周りからの評価があって初めて感じる感情なのです。

学力向上のために

特別活動で培われた自主的、実践的な態度や、協力的、支持的風土が、各教科等の学習により影響を与え、学力向上につながります。また、国語科をはじめとする各教科等で培った「話し合う力」が、学級会などの児童・生徒による主体的な話し合い活動の基盤となります。つまり、特別活動と各教科等における指導が適切に行われてこそ、よりよい人間関係づくりがなされ、学力向上につながるのです。なお、学級活動(2)の共通事項「ア 希望や目標をもって生きる態度の形成」では、意欲的、計画的な学習態度の形成に関する学習をし、学習に対する課題をつかみ、自分なりの解決方法を決め実践します。

学級活動(1)の指導の流れは？

学級の諸問題について話し合って解決する活動を通し、望ましい人間関係や社会参画の態度を育てます。また、違いや多様性を超えて、“合意形成をする言語能力”の育成を図ります。

学級活動(1)とは、取り上げる内容を子どもたちが決め、学級全員が取り組むべき内容を扱う。方法などを話し合い、集団決定したことに基づいてみんなで協力してよりよい学級や学校を築く活動。

議題「どうぞよろしくの会をしよう」(小学校第3学年)を例に

①問題の発見



クラス替えをしたから、みんなのことを知って早く仲良くなれるような集会がしたいな。

なるほど。議題ポストに提案してごらん。



議題の提案につながる児童のつぶやきなどを見付け、助言することで、問題を発見する視点を伝えます。

- 議題ポストへの提案から。
- 朝の会や帰りの会で話題になったものから。
- 学級日誌などに書かれていることから。
- 係活動や当番活動の感想から。など

②議題の選定(計画委員会)



そう考えると、今回は「どうぞよろしくの会」がいいね。

学級の全員に関係があって、今取り上げるべき議題はどれでしょう。



提案された議題の中から、取り上げる議題を選びます。
選ばれなかった議題の取扱いについて提案者に伝えます。

【児童に任せることのできない内容に注意します。】

例 個人情報やプライバシー、教育課程や施設・設備に関わること、金銭徴収に関わること など

③活動計画の作成(計画委員会)



学級会では、どんな遊びをするか、どんな係が必要か、などについて話し合います。

1時間かけて全員で話し合う必要があるのは、どんなことかな。



【計画委員会で話し合うこと】

- 提案者の思いを生かして提案理由を明確化する。
- 「学級会で話し合うこと」(話し合いの柱)を決定する。
- 役割分担をする。 など

④本時の活動

集団討議による集団目標の集団決定(共同の問題をみんなで相談、みんなで決める。)

議題 どうぞよろしくの会をしよう

提案理由・話し合いのめあて

話し合いの柱① 何のゲームをするか
話し合いの柱② どんな工夫ができるか
話し合いの柱③ どんな係が必要か

出し合う → くらべ合う → まとめる(決める)

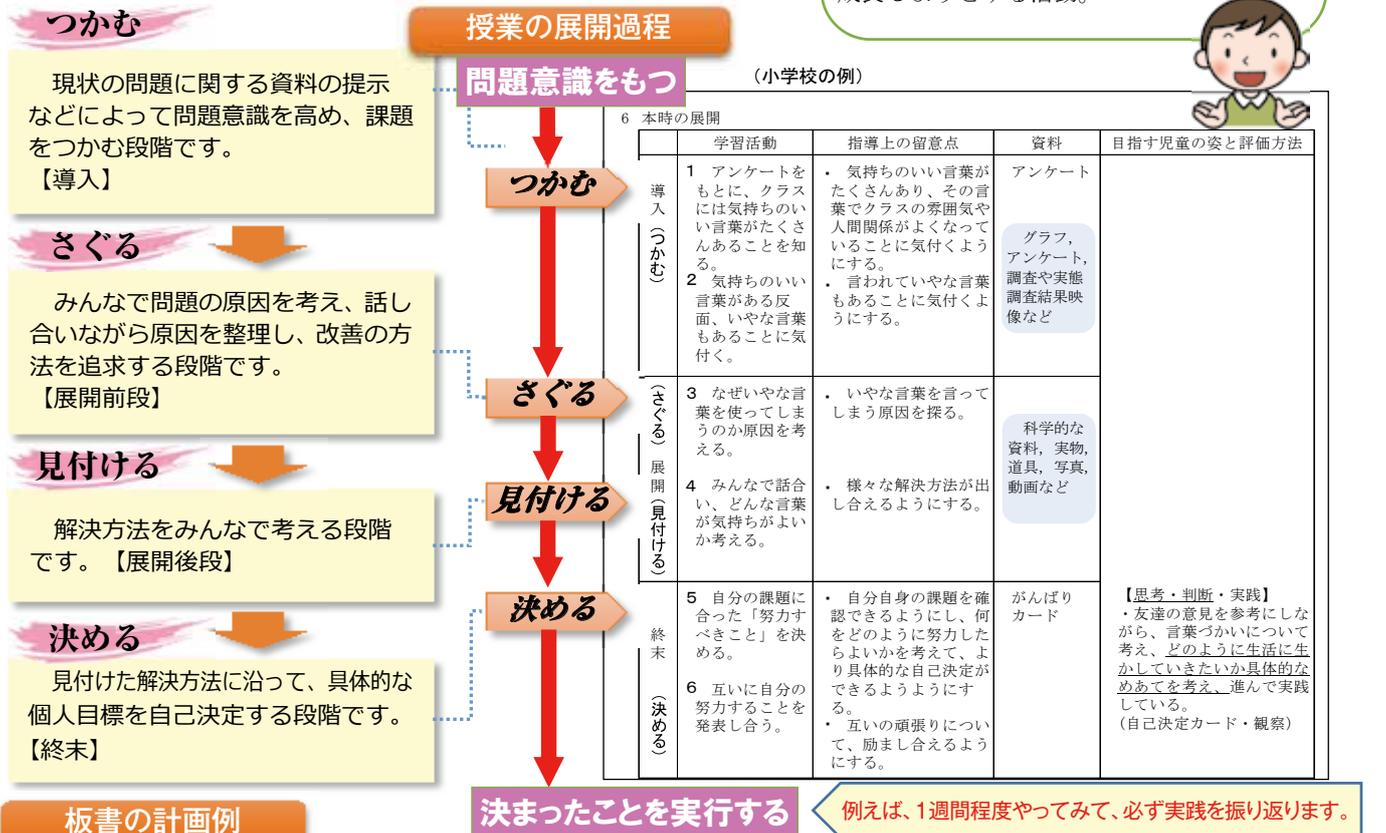
話し合いの振り返り
決まったこと確かめ
教師の話

学級会では、教師は児童の話し合いを見守ることが基本になります。適切なタイミングで指導・助言を行いながら、児童が自分たちでよりよい集団決定ができるようにします。

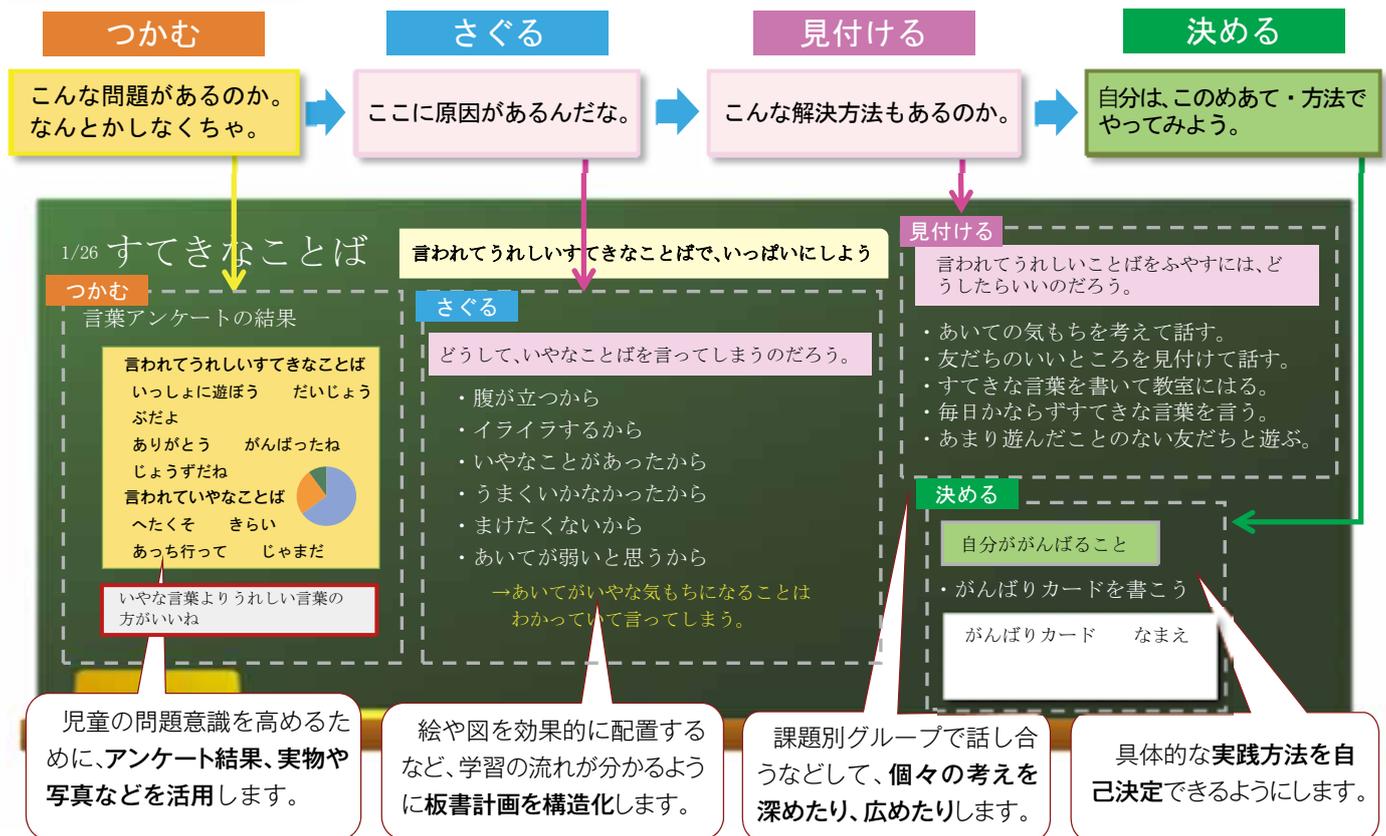
学級活動(2)の指導の流れは？

[つかむ]→[さぐる]→[見付ける]→[決める]→[実行する]は、学級活動(2)の活動の流れの基本形です。授業のつくり方は内容や児童の実態により、板書計画を工夫します。

学級活動(2)とは、取り上げる内容を教師が決め、学級に共通し、個々が努力して解決すべき内容を扱う。解決方法などについて話し合い、自己決定したことに基いて一人一人が強い意志で努力し、よりよい自分へと成長しようとする活動。



板書の計画例



◆全校児童の前で得意なことを披露

自分の特技を披露しようという有志児童が出演し、予選を経て、全校での本選が行われます。内容は、ダンス、ピアノ、けん玉、なわとび、お笑い・・・と様々です。自己表現したことを認められる経験は、自尊感情を高めます。このような活動は、学級活動（1）における集会活動で行うことも可能です。



みんなが笑ってくれた！



みんなの前で踊ると気持ちいいな。

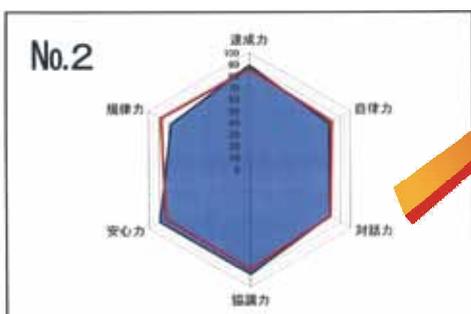


自己を表現し、友だちに認められる経験が自信につながります。また、互いに認め合おうとする態度にもつながっていきます。全員がそんな経験ができるような場を計画的に設定していきましょう。

◆自己評価による振り返り

「学級力アンケート」の結果をレーダーチャート図に表し、生徒が学級の状況を学級目標に照らし合わせながら客観的に振り返り、話し合います。そして、「学級のよさをさらに伸ばしていくために」「課題を改善するために」という視点で、よりよい学級にするための取組を話し合い、集団決定します。

決定したことは、班長会や終学活等で振り返りながら実践していきます。そして、生徒自身がその成果を次のアンケートで確認し、新たな取組を話し合うというPDCAサイクルを繰り返します。このサイクルを生徒が主体的に進められるように指導することで、自治的集団を育てています。



こんな取組をしてみてもうどうでしょう？

私たちの学級は、今どんな状態？



子どもたちが学級づくりの主体者となることで、学級づくり、学校づくりに参画する態度が育ちます。自分たちで話し合いを進め、課題を発見したり取組を考えたりできるようになるためには、はじめは学級活動の時間にいていかに指導することが大切です。慣れてきたら、徐々に子どもたちに任せ、教師はサポート役にまわしましょう。そして、実践の中で、成果を実感したり、次の課題を見付けたりできるような関わり方をしていきましょう。

(2) 授業でよりよい学級づくり

子ども達が学校生活の中で共に過ごす時間の大半は、授業時間です。集団で学ぶ授業の特性を生かして、互いに認め合い協力し合うことの大切さを感じさせることができます。

「学び合う」「高め合う」ことができるよりよい学級づくりをめざし、次の点について留意していきましょう。

◆安心して話ができる雰囲気をつくる

「授業中に自分の考えを発表したら、間違っていて友だちに笑われた。」このような経験をする、その子は、間違えることをおそれ、発表できなくなってしまいます。

子どもが安心して話ができる雰囲気を作るために、自分の考えを発表したことのよさを認めて、温かい言葉をかけましょう。

また、「誰でも間違えることがあること」や「失敗や思考錯誤から学びが深まること」を子どもに伝えていきましょう。

〇〇さんの発表のおかげで、〇〇について、みんなで詳しく考えることができたね。ありがとう。



◆一人一人が活躍できる場をつくる

一人一人が大切にされ、それぞれが活躍できるような授業を行うことで、子ども達は学習に自信を持って取り組むことができるようになり、互いに認め合うようになります。そのために、子ども達の学習状況や特性を理解して、どの場面でどの子が活躍できそうか考えることが大切です。

授業中に、個に応じた支援を行ったり、ほめたりすることで、一人一人の考えを出し合う場を設定しましょう。自分の考えを伝えるのに苦手意識のある子どもには、個で考える時間を確保し、ノートやホワイトボードで可視化することも有効です。また、事前に話し合う内容を伝えておいたり、教師と一緒に考える時間を作ったりして、「自分の考えを伝えることができた」という成功経験をつみあげ、子どもに自信をつけていきましょう。

もう少し考える時間があつたらいいのに…。



◆子どもの主体的に学び合う授業をつくる

子ども達が主体的・協働的に学ぶ授業をめざして、次の点をチェックしてみましょう。

【教師編】

- 課題や発問は、子どもが学び合いたくなるものになっていますか。
- 話し合い活動の場面で、教師が助言や解説をしすぎていませんか。
- 「教師対子ども」の一对一のやりとりだけで、授業が進んでいませんか。

【子ども編】

- 子どもが「つなぐ言葉」「広げる言葉」を積極的に使っていますか。
- 子ども自身が、自分たちの学び姿を振り返っていますか。

「あいづち」「つなぐ言葉」「広げる言葉」を使って
 友達の話を「うんうん」とあいづちをうちながら肯定的に聞いたり、自分の話を聞いてもらったりすることで、子ども同士の間に安心して話せる雰囲気が生まれます。また、自分の発表したことが「つなぐ言葉」「広げる言葉」を使って、クラスで共有されることで、子どもの自信や喜びにつながり、話し合うことのよさを感じる事ができます。

「つなぐ言葉」「広げる言葉」	
というとは？	似たようなことではない？
ほかには？	もっと詳しく教えて。
そのわけは？	エピソードを教えてください。
どうして？	
たとえば？	
具体的には？	

学び合いのある授業をめざして 倉吉市立久米中学校

交流

◆話し合い活動の活性化をめざして

生徒一人に1枚ずつ準備したホワイトボード（A4サイズ、裏面マグネット付き）を活用した授業づくりを進めています。

まず、各自がボードに自分の考えの要点を書いて思考を整理・可視化します。そして、ボードを見せながらペアやグループで説明し合うことで思考の共有化を図ります。互いの考えの共通点や相違点が明確になり、新たな考えを書き加えることで話し合いが深まると同時に、試行錯誤の様子を指導者も把握できます。クラス全体で共有化する際も、全員の意見を黒板に掲示することができます。



久米中学校区では、各教科、特別活動、道徳など、話し合い活動の活性化をめざし、小中連携を軸に効果的な活用を研究しているところです。

◆「学び合い」のよさを感じて、高め合う学級へ

久米中学校では、給食時間に学習委員長が「前日の学びの振り返り（宿題達成率、授業評価）」を放送します。学習態度のABC評価に加えて、昨年度よりS評価を取り入れました。Sとは、生徒が主体的に話し合いに参加し学びの深まりが見られた時につく評価です。学びの質についても生徒自身が意識し、高め合う学級集団づくりに向けて努力しています。



「ホワイトボード」や「ミニ黒板」は、思考を可視化するのに有効なツールですが、それを使うこと自体が目的にならないように注意しましょう。中学校では、学びの質について生徒自身が評価することで成果を上げています。

生徒同士をつなぐ授業づくり 米子市立美保中学校

交流

◆生徒同士をつなぐ課題の設定

授業で付けたい力や目指す生徒の姿をもとに、生徒同士の「学び合い」のある活動を意図した「課題」づくりをしています。各教科で、やる気を喚起したり、探究の喜びを感じたり、関わり合う必然性を持たせたりすることができる「学ぶ値打ちのある課題」の設定を工夫しています。



- (例) 英語科 ペアによるオリジナル英会話づくり
- 国語科 生徒同士による作文の添削指導
- 理科 既習事項を説明「1円玉がアルミニウムであることを説明しよう」

◆言語活動の充実

授業だけでなく、学校行事や生徒会活動でも学び合い、高め合う集団づくりを目指しています。

例えば、体育祭では、縦割りのチームで話し合う場面を設定しています。



子どもが学び合いたくなる課題や発問を考えましょう。様々な場面でねらいを達成するのに有効な言語活動を取り入れていきましょう。

(3) 人間関係づくりのためのアプローチ

～ソーシャルスキルトレーニング (SST)～

① SSTが求められる背景

核家族化、デジタルメディアの普及、地域交流の減少などにより、子どもたちが身近な大人と接する機会が少なくなり、地域、社会の規範や人と人との関わり方のモデルを大人から見習う機会も減ってきています。不登校やいじめといった問題も、望ましい対人関係のモデルに接する機会が減ったことも一因と考えられます。学校教育の中に意図的、計画的に対人関係の体験学習を取り入れることが求められています。

② SSTとは？…対人関係を営むための知識と技術を体験的に学習すること

種類	内容
相手を気づかうスキル (配慮のスキル)	謝る(ごめんなさい)、許す(いいよ、気にしないで)、手伝う(手伝おうか?)、話を聞く(目を見てうなずく)、体を気づかう(大丈夫?)、許可を求める(〇〇していいですか)、譲る(どうぞ)、同意する(そうですね)
相手にかかわるスキル (かかわりのスキル)	話しかける(話しかけていい?)、感謝する(ありがとう)、質問する(分からないことを聞いていい?)、遊びに誘う(一緒に遊ばない?) 気持ちを伝える(〇〇と思う、理由は～)、借りる(困っているから、〇〇を貸して)、意見を求める(〇〇さんはどう思う?)

③ SST活動を作る流れ

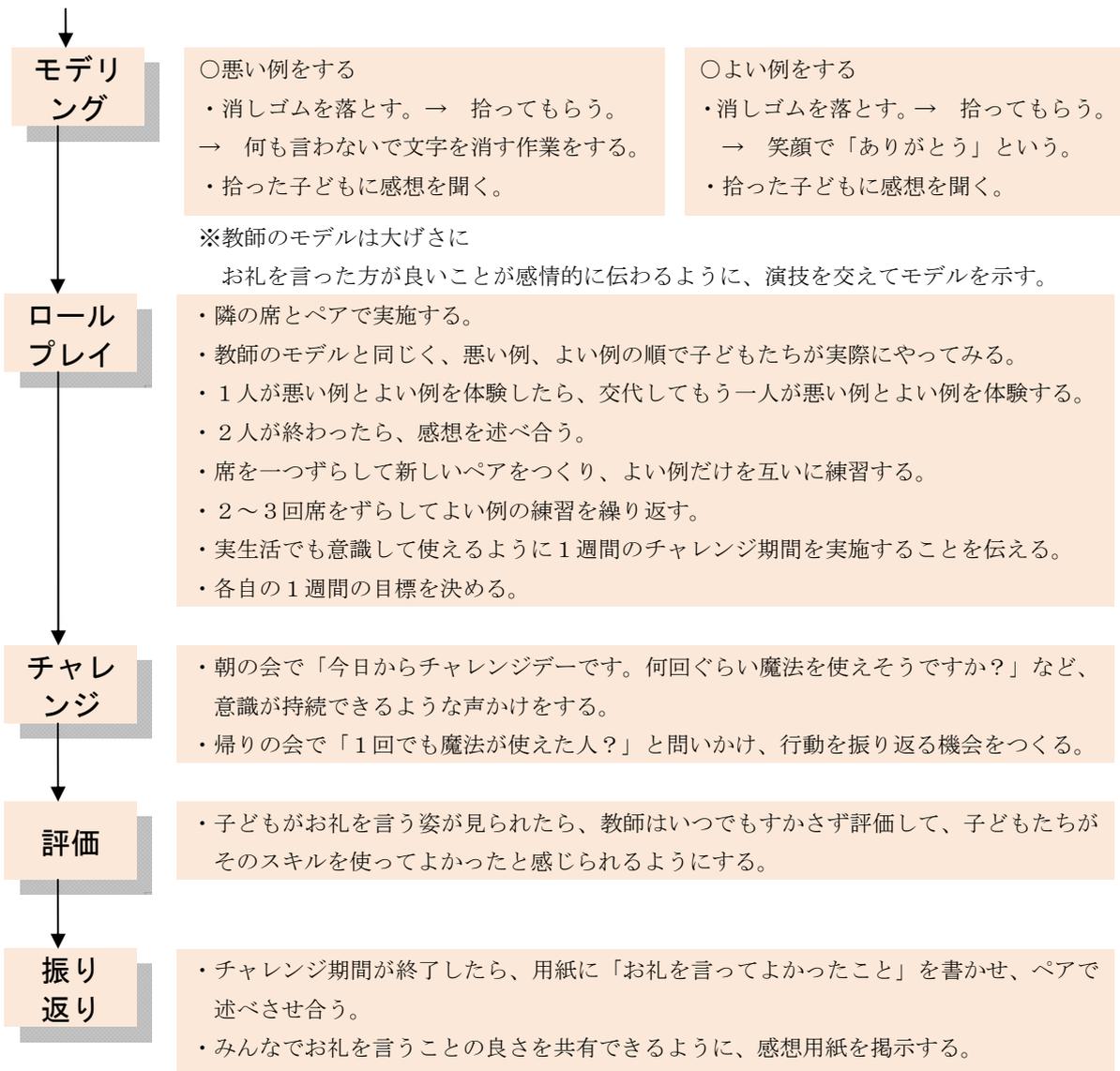
流れ	内容
事前	スキルの特定 普段の生活の様子を観察し、課題となるスキルを見つける。
授業	説明 心地よい生活を送ることを目的とし、スキルを学ぶ意義を伝える。
	モデリング そのスキルを使った場合と使わなかった場合を実演し、情動的に必要性を実感させる。
	ロールプレイ 仮想場面を設定して、スキルの練習をする。場面を工夫して楽しく練習できると、実際に使ってみようという意欲につながる。
実行	チャレンジ 1週間程度の期間、意識してスキルを使いながら生活する。
振り返り	評価 子どもがスキルを使っている場面を見たら、意欲を伸ばすため教師は逃さず、すかさず積極的にほめる。
	振り返り 実際に使って生活した心情を振り返り、皆で良さを共有する。

④ SSTの例 「ありがとう」…感謝の気持ちを伝えるかかわりのスキル

説明

先週の休み時間のことでした。先生が音楽室に行く時、リコーダーを落としたことに気付かないで、「なくした」と困っていました。すると、ある男子がリコーダーを拾って持って来てくれました。うれしかったので笑顔で「ありがとう」とお礼を言うと、男子も嬉しそうに笑ってくれました。そして、困っている人がいたら、今度は先生がお手伝いをしてあげようと思いました。

「ありがとう」という言葉には、不思議な魔法が2つあります。1つ目は、「うれしかったという気持ちが相手に伝わって、2人ともうれしい気持ちになれる」という魔法です。2つ目は、「今度は自分も人のお手伝いをしてあげよう」という気持ちになれる魔法です。「ありがとう」という言葉が増えると、みんながうれしくなって、親切がどんどん増えていきます。先生は、〇組がそんな学級になるといいなと思っています。みんなにも「ありがとう」をたくさん使ってほしいので、これから練習してみたいと思います。



SSTの取り組み

米子市立福生西小学校

交流

◆生活を円滑にするスキルのトレーニング

「人間関係の問題を解決する方法」を知り、生活に生かすことができるように、月に2回、5時間目の前の15分間を使ってソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいます。そこでは、大きく分けて2つの領域のスキルを行っています。「配慮のスキル」（対人関係における相手への気遣い、マナー、ルールなど）と「かかわりのスキル」（感情交流の形成、集団活動に主体的にかかわる姿勢など）である。年間計画に基づいて、1回は第1月曜日に全校でそろえたテーマで、もう1回は各学級の実態に応じて行います。

◆「笑顔であいさつ」（1年生）

2人で自己紹介をし合い、握手をしながら笑顔で「よろしくお願ひします。」とあいさつをします。初めは照れくさそうにしていた子も、2人目、3人目となるうちに自分から進んであいさつができるようになります。普段の生活でも「笑顔であいさつ」を合い言葉にして、あいさつをすることの大切さ、気持ちよさを感じられるようにしています。



スキルを使って“心地よかった”と覚る事が定着につながります。教師や子ども同士で積極的に評価し合う機会をつくりましょう。

(4) 劇でよりよい人間関係づくり

国語や特別活動、総合的な学習の時間など、様々な教科・領域の中で「劇」を取り入れた教育活動を行うことがあります。「劇」は学級づくり、人間関係づくりに効果があるといわれています。文部科学省も子どもたちのコミュニケーション能力を育成するために、芸術家を学校に派遣し、ワークショップ型の授業を展開しています。



鳥取市立鹿野小学校6年生の練習の様子

◆学級という集団で「劇」を創り上げる過程での効果

子どもたちは話し合い、考えを出し合い、よりよいものを創ろうと協力します。劇の中で、誰もが学級の一員として役割を担い、誰もがいなくてはならない存在となり、そこに居場所ができます。協力して劇を創り上げる過程で、周りの人のがんばりやよさを見つかることができると共に、自分のよさにも気付くことができます。互いに相手のことを認めることができる集団は、安心して学習できる集団ともいえるでしょう。

◆劇を通して「演じる」ことで得られる効果

劇の中で周りの様子を感じながら演じることは、自分を認識することにつながります。登場人物になりきり、多様な人間の疑似体験することができます。表現する楽しさも感じられます。劇を通して生まれた関わりを、実際の生活の中に取り入れて継続していくことで、人間関係を広げることができます。劇を通して、世界を広げたり、他者を理解しようとしたりする姿勢が生まれるかもしれません。

鳥の劇場 役者さんの光る言葉



- 劇の役は一人一人違うけれど、めざすところは同じ
- 台詞は無くても、役者は同じ空間に存在している
- 劇の役を演じる中で、新しい関わり合いが生まれる
- 伝えたい相手をもって、その人に届けるように声を出す
- 言葉の意味を考える 背景を考える 場の雰囲気をおこさないように
- 劇は点ではできない、みんなが点と点をつなげようと意識しないとできない
- この言葉があるから、次の言葉がある 「バトンの言葉」を大切に
- 集団の一部として役を演じることで、自分のことや周りのことを意識し始める



学級にいる子どもたちも一人一人違います。違うけれど、同じ目標に向かって共に集団を作っていく過程は、劇と似ています。相手の気持ちを想像したり、言葉を届けたり受け取ったりする中で、つながり合う集団を作りましょう。

児童の感想 ～鳥の劇場の方に教えて～

鳥のげき場の人に教えてもらって、歌がとても上手になりました。歌を歌うことがすきになってきたのがうれしいです。

(4年児童)

伝えようとする相手がかわったり、思いがかわったりするだけで、大きな声にかわったのでびっくりしました。

(3年児童)



「鳥の劇場」の劇団員さんによる指導

うしろでせりふを言わないわたしも、みんなと一緒によることが、べんきょうになりました。(3年児童)

劇について 子どもたちにインタビュー

鳥取市立鹿野小学校

交流



Q 友達との関係が近づきますか

A 劇を本気になって作り始めてから、普段外で元気に走り回っている男子が、目の色を変えて衣装づくりをしたり、小道具の材料を集めてくれたりして、距離が縮まりました。

6年生は、自分たちの劇がよりよくなるように、話し合いをもちました。

Q みんなで役について話し合っ、どう変わりましたか。

A 台詞の意味や劇の中での重要性が分かるにつれて、言いたい台詞が増えました。すると、日ごろ控えめな友達が積極的に「この台詞が言いたい」と立候補するようになり、びっくりしました。

A 指導に来られた劇団の方が、台本を見て涙を流しておられました。その姿を見て、「私たちは戦争のつらさを本気で伝えなければいけないんだ」と思いました。プロみたいにはできないけれど、何事も本気になれば伝わるということ学びました。

Q 劇をして心が一つになったと感じたことはありますか。

A 台詞が終わったらすぐにそでに移動するのではなく、後ろに座って演技をするように指導を受けました。自分自身が背景の一部になっているのです。みんなで一つの場面をつくっている感じです。



鳥取市立鹿野小学校6年生の「鹿野っ子まつり」での劇の様子



短期間で見栄えのよい劇を教師が作るのではなく、子どもたちが主体的に劇を作っていくように長期的な視野を持って取り組みましょう。教師の適切なアドバイスや指導を入れながら、子どもたちが自分たちで創り上げたと感じることが大切です。